



1. トッピングをお手伝い。ピーマンも収穫したよ！/2. 自己紹介&交流タイムには、伊達市に住んでみての感想や一押しスポットなどを語り合った
/3. もちもちの生地をこねこね、楽しくママのお手伝い/4. 粉から自分で作ったピザの味は格別。お店のピザよりおいしい！

「ピザづくり、楽しく交流」

9月10日㊤、つきだて花工房で「移住者交流会」が開かれました。交流タイムではそれぞれ伊達市のいいところやオススメのお店、遊び場、医療機関の情報など、生活に密着した情報を交換しました。ピザづくりでは、生地づくりから採れたて野菜をトッピングするところまで、全て自分たちで体験。ピザが焼き上がるまでの間、そりすべりをしたり、走り回ったりしながら交流を深め、出来立てのピザをみんなで味わいました。市では今後も交流会などを開催し、伊達に移り住む皆さんがなじみやすい環境づくりに努めます。



市長コラム 第46回

「大きな感動をありがとう！」

須田博行

第104回全国高等学校野球選手権大会に福島県代表として、地元の聖光学院高等学校が3年ぶり17度目の出場を果たしました。大会では全国優勝経験校に次々と勝利し、福島県では51年ぶり、同校では初のベスト4という偉業を成し遂げました。また、ユニホームに刺しゅうされた「伊達市」の文字は、本市の名を全国に広めてくれました。惜しくも決勝進出は逃しましたが、粘り強く最後まで諦めないプレーは、多くの人に元気と感動を届けてくれました。素晴らしい試合を何度も見せてくれた選手の皆さん、本当にありがとうございました。

聖光学院野球部の練習グラウンドには「不動心」という文字が掲げてあります。「試合でどんなことが起きても動じず、目の前のプレーに集中する」との思いが込められていると聞きました。私は、その「不動心」のプレーを初戦の

日大三との試合で見せてもらいました。相手に先制されても、追加点を上げられても選手たちは一向に慌てない。度重なるピンチでも落ち着いた守りで切り抜ける。アルプス席も選手たちを信じて応援を続ける。この一体感と自分たちの野球に徹する選手たちの心が逆転につながったのだと思います。

さて、今回優勝した仙台育英のブラスバンドが決勝戦の6回裏に聖光学院が応援曲として使用しているGREENの「キセキ」を奏でました。同じ東北勢として思いを受け継ぎ、急ぎょ演奏してくれた友情に胸が熱くなりました。聖光学院は10月に栃木県で開催される国体に出場します。選手たちは「日本一は国体で」との決意を新たに試合に臨みます。一戦一戦を「不動心」で勝ち抜き、甲子園で思いを受け継いでくれた仙台育英との東北勢決勝となったらとても素晴らしいと思っています。